



R.I. D.2740 JAPAN
佐世保ロータリークラブ

会長: 中村 徳裕 幹事: 福田 金吾

事務所: 佐世保市島瀬町10-12 十八親和銀行 佐世保本店内 TEL 0956-22-7720 FAX 0956-25-6323

例会場: レオプラザホテル佐世保 (毎週水曜日) TEL 0956-22-4141

http://www.sasebo-rc.jp/ E-mail: src@circus.ocn.ne.jp

令和 5 年 3 月 1 日

第 3,471 回例会

NO 24

《本日》会員数 73名(出席規定免除 23名)・出席 48名・欠席 25名・(免除者欠席 12名)・ビジター 0名・出席率 65.75%

《2月15日》会員数 73名(出席規定免除 23名)・出席 51名・欠席 22名・(免除者欠席 9名)・メークアップ 3名・修正出席率 84.38%

会長挨拶

会長 中村 徳裕

本日も多数のみなさまにご出席賜りありがとうございます。ここで先週開催されたインターシティミーティング、佐賀ロータリークラブ70周年記念式典祝賀会についてご報告を兼ねてお話ししたいと思います。



【佐賀ロータリークラブ70周年記念式典祝賀会について】

2023年2月25日11時より、ホテルニューオータニ佐賀において、佐賀ロータリークラブ創立70周年記念式典祝賀会が開催され、佐世保ロータリークラブからは、福田金治パストガバナー、会長として私、福田金吾幹事の3名が招かれ、式典及び祝宴に出席しました。

佐賀ロータリークラブは、福岡RCと佐世保RCをスポンサークラブとして、昭和27年10月8日に佐賀県初のRCとして発足。昭和28年2月25日に国際ロータリーから認証を受け、ちょうど70年を経たこの日に式典を開催されました。

佐世保ロータリークラブは親クラブとして、来賓として壇上にて感謝状を拝受しました。同じテーブルに招かれていた来賓は、佐賀県知事山口祥義様、佐賀市長坂井英隆様、ガバナー上村春甫様、福岡RC副会長武内英一郎様、姉妹クラブ大韓民国南釜山RC

会長李昌大様、そして佐世保RC会長の中村徳裕でした。

記念式典は、厳粛に70周年の感謝を伝える見事なもので、それをスムーズな進行により約1時間に凝縮されていました。また、祝賀会には、300名を超える出席者で賑わい、コロナを意識した配慮もありましたが、アットホームな雰囲気の中、12時過ぎにスタートして、14時前にはお開きとなるスムーズな進行をされていました。アトラクションでは福岡で活躍されている佐賀出身のボーカリスト「Shinoe」さんが、ギタリストの伴奏で楽しいライブを披露されました。



【インターシティミーティングについて】

先週2月23日天皇誕生日に、第5第6グループの11のロータリークラブから約200名が一堂に会して、「インターシティミーティング」が開催されました。祝日木曜日にもかかわらず、20名を超える当クラブ会員の皆様に貴重な時間を割いてご出席いただきありがとうございました。

橋口佳周第6グループガバナー補佐、安部重幸第5グループガバナー補佐のもと、ホストクラブ佐世保中央RCの前田眞澄会長、馬場貴博実行委員長を中心に、入念な準備のもと素晴らしい運営をされました。

テーマは、「不易流行 ロータリーは何処へ」。歴史あるロータリーの中で、本質的で不変なこと・変えるべきでないこと「不易」と、時代に沿って変化していくべき「流行」について考えるというテーマで、11クラブからそれぞれの代表メンバーが、登壇して発表するという形式で進行されました。

第1部の「わがクラブ自慢!!」のコーナーでは、安部雅隆副幹事がトップバッターで登場し、佐世保RCについて、歴史と伝統ある当クラブの自慢を、他のクラブのことも配慮しつつ、品格をもってプレゼンテーションされ、わがクラブのことを、好感をもって受け止めていただけたと感じております。

印象に残った他クラブの自慢では、それぞれの例会会場の「料理自慢」です。メーカーアップに行ってみたくなるようなプレゼンが印象的でした。

第2部の「パネルディスカッション」のコーナーでは、11クラブの幹事がステージに登壇して、先日行われた「アンケート結果」に基づく設問に対し、意見を述べ合う形式で進行されました。事前には全く内容を開示されず、全部アドリブで答えなくてはならないという、登壇者に対して厳しい内容でしたが、当クラブの福田金吾幹事がしっかりとその役目を果たしてくれました。当クラブの発表内容については、「不易」の部分では素晴らしい歴史と伝統を継承していくことを、品格をもって発表されたと同時に、「流行」の部分では、女性会員拡大の話題に触れないわけにはいかないという、まさに今の状況に応じた対応を、額に汗しながら頑張ってその役を務めていただきました。

パネルディスカッションの中で印象に残った他クラブの発表内容をご紹介します。

佐世保北RCさんは、姉妹RCを新たに見直し、フィリピンのRCと新たな取り組みを始められたそうです。また、「衛星クラブ」という新たな制度のクラブをスタートされ、月に2回19時30分から45分間の例会と、毎

回の懇親会を行い、参加しやすさと親睦の深まりを両立され、将来のRCメンバーを育てる会員拡大の新たな手法を進められています。また、会員が例会で座るテーブルを、月ごとに組み替える方法をとられ、その月に「テーブル会」と称して飲み会を行う制度をとられ、会員間の親睦がひろがるよう工夫されているそうです。

平戸RCさんは、初めての女性会長として松永いづみ会長が活躍されていますが、今後女性会員比率50%を目指して会員拡大に努めると発表されました。

佐世保中央RCでは、レジャークラブを開催され、ゴルフやダイビングなど様々な企画をなさっており、特にゴルフではハンディを大幅に与えるなどして、52名の会員の中で42名が参加するという、スコア70台から150台までの幅広い交流をされているそうです。

今回のインターシティミーティングによって、近隣の11クラブを、より身近に感じることができ、相互の親睦が深まるきっかけになったと感じています。また、ロータリーの魅力をあらためて感じることができ意義ある会だったと、準備から運営に多大なるご尽力をされた佐世保中央RCの皆様には深く御礼を申し上げますとともに、参加いただいた皆様に御礼を申し上げます。

本日のゲストには、株式会社キブランド ナップ 長崎支店マネージャー 浦裕樹様をお迎えして、「ドローン活用事例のご紹介」というテーマで卓話をいただきます。それでは充実した例会になりますように、みなさまどうぞよろしくお願いいたします。

【第9回理事会報告】

本日3月1日11時より、レオプラザホテル4階にて第9回理事会を行いましたのでご報告いたします。

3月29日の「観桜例会」について、安福竜介親睦活動委員長よりご提案があり、内容について予算含めて承認され、決定いたし

ました。五感で味わえる観桜例会というテーマで、料理やアトラクションを企画していただいております。あらためて委員会よりご案内があると思いますので、皆さま多数のご出席をよろしくお願いいたします。

また、「クラブ定款・細則改正」を議題として協議を行いました。その内容については、3月22日の例会において古賀巖ロータリー情報・文献記録委員長より、皆様にご説明いただき、4月上旬の例会において決議いただく予定となっております。

「トルコ・シリア大地震支援金」についてガバナー会より協力依頼がありました。次週3月8日と15日の例会において会員の皆様に募金を呼びかけ、財団・米山・補助金委員会より地区ガバナー会にお渡しするということになりました。

「3月及び4月の例会プログラム」について、一部調整中のものもありますが承認となりました。詳しくは週報にてご確認いただきたいと思っております。

以上、概略ですが、理事会報告とさせていただきます。

例会記録

- 国歌「君が代」
- ロータリーソング「四つのテスト」
- 卓話者

(株)kiipl&nap 長崎支店マネージャー
浦 裕樹 様

幹事報告

幹事 福田 金吾

1. 地区ローターアクト代表 鐘ヶ江紗世 さん
地区ローターアクト幹事 西 那央美 さん
地区年次大会実行委員長 馬場嵩一郎 さん
国際ロータリー第2740地区ローターアクト
第40回地区年次大会 仮登録のご案内

2. 国際ロータリー日本事務局 財団室
財団室NEWS 3月号

委員会報告

■職業・社会奉仕委員会

副委員長 山口 健二

当委員会で3月28日に予定しておりますキッザニア視察についてご報告いたします。参加総数は41名、内メンバー14名、子供17名です。



また、視察に先だちましてキッザニア本社より事業開発本部 池上副部長をお招きして、卓話をさせていただく予定です。

視察に参加される方は事前準備との機会として、参加されない方も事業内容をご理解頂くよい機会となると考えますので、出来るだけ多くのメンバーの方の参加をお願いして、委員会報告を終わらせて頂きます。ありがとうございました。

ニコニコボックス

親睦活動委員会 前田 真一

中村 徳裕 会長、福田 金吾 幹事
安部 雅隆 副幹事、中川 知之 さん
廣瀬 章博 さん、庭木 香充 さん
内海 暢邦 さん、永瀬 徳豊 さん
中島 顕 さん、増本 一也 さん
大神 吉史 さん、松本 祐明 さん
福田 金治 さん、古賀 久貴 さん

キプランドナップ長崎支店マネージャー
浦 裕樹様の卓話に期待してニコニコします。

ニコニコボックス 本日合計 14,000円
累計 766,000円

卓 話

「ドローン活用事例のご紹介」

(株)kiipl&nap 長崎支店マネージャー
浦 裕樹 様

只今ご紹介にあずかりました株式会社キブランドナップの浦と申します。



本日は近年のドローン活用の状況について弊社の事例も交えてお話させていただけるということで、お邪魔いたしました。

若輩者ではございますが、しばらく間お付き合いのほどよろしくお願いいたします。

なかなか読みにくい会社名で、いつも1度で理解していただけないのですが、「キブランドナップ」と読みます。

もともと長崎放送のグループ会社でドローン事業を行っておりましたが、2021年のグループ会社再編のタイミングで新しくドローン事業メインの会社を立ち上げました。

現在は東京を本社とし、長崎支店と2拠点で活動しておりますがこのように全国13か所、これまで様々な案件でご一緒してきた経験豊富なドローン事業者様とアライアンスを組み、全国での案件に対応しております。

ここからは、ドローンを活用した事例のご紹介をさせていただきます。

ずらっと様々な活用方法を並べさせていただきました。

まず左上から参りますと、テレビをご覧いただければ見ない日はないというくらいドローンの空撮というものが当たり前の時代となりました。

もともとヘリコプターやセスナ機、モーターパラグライダーなど費用やリスクの大きかった空撮業務ですが、安価で高性能なドローンが登場し一気に普及が広まること

となりました。

我々の事業もはじめはこちらの空撮事業からスタートしたわけですが他にも防災関係やインフラ点検、測量や農薬散布という利用方法が業界でスタンダードになりつつあります。

物流での活用も実証実験が全国で実施されていますし、最近ニュースなどで耳にされる方も多いかと思いますが軍事利用も含め使用用途は様々です。

最初に空撮の活用ということで、長崎放送でOAされております。長崎ばーどアイで放送された佐世保の名所を纏めておりますので、ぜひご覧ください。

【動画】佐世保空撮映像

ここから本題のドローンの産業利用についてお話をさせていただきたいと思います。

まずはインフラ点検に関してですが、政府が昨年12月、人による目視や常駐などを義務付ける「アナログ規制」撤廃の工程表をまとめました。

川やダム(point)の点検は本年3月までにドローンや水中ロボットを活用できるようにすることで、従来は河川法に基づき目視が原則でしたが、デジタル技術を使った点検もできると明確にする。ということです。

アナログ規制の撤廃に先立ちまして、弊社で行っている点検のデモンストレーションの資料を本日は特別に共有させていただきます。こちらは水力発電所のダム施設になります。

上空や側面から撮影した大量の写真から3Dデータを作成し、これまでキャットウォークから行っていた目視点検に代わりデジタル技術を駆使して点検を行うものです。

高さ150mほどの非常に大きなダムでの点検は危険も伴いますし、正直これまでは全てを点検することができていないということでした。

【動画】3Dデータ

先ほどと同様に電力設備の点検ですが、こちらは風力発電機のブレード点検です。

海外製のアプリを使用し、事前に位置や

高さや向きの登録は必要なものの、飛行の際は最初の微調整を除いてほぼ自動となります。

カメラの明るさの調整など一部操作は必要となりますが、1フライトで3本のブレードを4方向から連続写真で撮影していきます。

【動画】 風力オートフライト点検

こちらは、ハウステンボス様とハウステンボス技術センター様にご協力いただき、先端技術導入実証ということで建物の広域点検を実施いたしました。

はしごや高所作業車等を使用せずに短時間で高精細な写真が撮影できるため、効率よく開演前のわずかな時間で3次元データを取得することができました。

定期的な撮影による経年劣化の確認や、台風など災害時の被害状況把握などにも使用できると考えております。

【動画】 ハウステンボス広域点検

ここまで屋外における点検についてお話いたしました。ここからは非GPS環境下で、かつ作業員が容易に入れない狭隘部や危険を伴う場所といった屋内の点検でのドローンの活用についてご紹介いたします。

ビジュアルスラムといって、自動車の衝突防止（アイサイトやプロパイロットなど）にも使われるステレオカメラを全方向に配置し、取得したデータから周囲の形状を把握し衝突を回避する機体やマイクロドローンと呼ばれる手のひらサイズのドローンにプロペラガードを取り付け、多少周辺にぶつかっても墜落しない機体を使い非常に狭い場所の点検が可能となりました。（屋根裏や床下、地下設備や煙突内など）

こちらは測量分野に関する活用事例です。カメラで撮影しデータを取得する写真測量はもちろん、レーザースキャナを搭載することにより、広範囲な3次元データを森林でも伐採せずに観測が行え、フィルタリング処理により地表面まで認識できます。

更に測量の技術を利用して林業でも活用が検討されていて、これまでは所有者の所

在がハッキリせず、明治時代の資料までさかのぼり確認していたような森林境界の明確化や樹種の判別もドローンを活用したデジタル技術により可能となっております。

皆さんご存じでしょうか？

CO2排出削減や災害防止の為、2024年度から1人1000円の森林環境税が住民税に上乘せられます。

先行して2019年から約840億円が他の財源からすでに配分されていますが、その47%にあたる395億円が具体的な活用方法を見いだせず、多くの自治体で基金として積み立てられているということです。

そのような状態で税金を徴収されるというのがそもそも問題ですが、森林整備は国土の保全化や水源保護のためにも重要な事ですので、今後ドローンの活用に期待しています。

（林の面積、林業従事者数、人口によって配分。人口の多い自治体に多く配分されることから林がない自治体にも配分されている。）

ここからは国家資格制度について簡単にお話します。

ドローンの申請数の増大や、民間講習団体の技術格差などが問題となり、昨年12月にスタートした制度で、これまでの民間資格から国家資格へシフトされていくと考えられています。

操縦者の1等2等、機体のI種2種と機体と操縦者それぞれでランク分けされることとなっております。

背景について記載しておりますが、掻い摘んでお話しすると免許を持っている人は一部申請不要にすることで申請数を減らし、今後活用が想定されるドローン物流で都市部上空もドローンを飛ばせるように規制緩和を行ったということになります。

いまドローンでの物流を実現させるためとお話いたしました。現在も様々な場所でドローン物流の実証実験が行われています。

インターネット通販が日常生活に浸透して約10年。90年代後半から比較すると宅配便取扱個数は3倍以上に増加していて、物流業界は労働力不足や交通渋滞といった問題に悩まされており、その課題を解決するのがドローンだと期待されています。

長崎県では主に五島列島において様々なドローン物流の実証実験が行われてきました。

数百mから50kmを超える距離など、他にも様々な機体を利用して物流の実証実験が行われています。

そんな中2021年には長崎県五島市にドローン物流サービス事業者が誕生しました。

国内でも物流ドローン専門のサービス会社は初だと思います。

まだまだ採算面での課題は多くありますが、今月まで五島列島で医薬品や日用品を実証実験として配送し、実証期間終了後も事業として継続的に実施するようです。

こういった長崎県での様々な実績が認められ、今年第2回の全国ドローンサミットが長崎県にて開催されることとなりました。(弊社も参加)

昨年は、2016年から開催されている日本最大のドローンの展示会でもあるジャパンドローン展初の地方開催が福岡で実施され、大分県には日本でも有数の規模で活動しているドローン協議会が積極的な活動を行うなど九州は全国的に見ても非常にドローンの活用が盛んな地域といえます。

さて、ここまで国内での活用事例についてお話ししましたが、一転海外では多くの無人航空機が軍事利用されている実情があります。

ミサイル攻撃に対応した防空システムは各国に配備されていますが、ドローンは低空で侵入する上に、小型であるため、従来のレーダーでは捉えにくいといわれています。(鳥との区別が難しい)

韓国では昨年、北朝鮮のドローン5機が韓国の領空を侵犯し1基はソウルの北部まで

飛来したそうですが、戦闘機とヘリコプターでの射撃もむなしく墜撃は出来なかったそうです。

ロシアのウクライナ侵攻でも多くのドローンが利用されています。

軍事用の小型ドローンは中東製のものも多く、ロシアもイラン製の自爆ドローンを使用しているといわれていますが、中国からロシアに100基ほど提供されるという報道もありました。(中国政府は否定)

一方ウクライナは国内で製造した攻撃用ドローンや、国内で販売されている民間用ドローンを偵察用として活躍していると世界的に報道されています。

そんな中、ドローンの世界シェア7割を占め日本でも一般的な中国のDJIというメーカーが、戦争に同社のドローンが使用されていることに危機感を持ち、ウクライナ、およびロシアの両国で自社のドローンの事業を撤退すると発表しました。

戦争を大きなチャンスととらえる企業もある中、中国企業がビジネスチャンスよりも企業の倫理基準を優先したことが一部で話題にもなりました。

国内に目を向けますと、自衛隊に約1000機のDJI(中国)製のドローンが配備されていましたが、情報流出のリスクを避けるため2020年以降順次国産機やアメリカ製の機体に入れ替わっています。

一方、大型の無人機でいうと2018年に3週間ほどアメリカのジェネラルアトミクス社が、当時データ収集や科学研究利用という名目で、長崎県壱岐市でデモフライトを行いました。

全長12m、翼幅24mという小学校のプールサイズで「ガーディアン」という名の大型機だったのですが、実は昨年10月に同社の「シーガーディアン」という機体が海上保安庁で運用開始されました。

運用開始までに150時間程度の飛行試験が行われ、青森県八戸市から飛び立ち連続で24時間以上飛び続けることが可能です。同型機を海上自衛隊も来年度から運用開始す

る予定です。

一方陸上自衛隊でも、「グローバルホーク」という同じようなアメリカ製他社機体の運用部隊が昨年末に発足しました。

こちらでも青森県三沢基地に配備されていて、昨年3月から整備点検を行い130人ほどの隊員で編成されています。

今後、さらにもう一機配備される予定となっています。

ここまでは小型・大型の無人航空機についてお話して参りましたが、最後はもはやドローンでもないですが「空飛ぶクルマ」についてもお話させていただきます。

2025年の大阪万博での目玉事業で、100年に1度の移動革命とも言われている「空飛ぶクルマ」ですが、海外はもちろん、国内でも開発が進められていて、先日大阪万博での運航事業者がANA(米ジョビーアビエーション)・JAL(独Volo City)・スカイドライブ(国産)・丸紅(英バーティカル・エアロスペース)の4社に決定しました。

一方、九州内でもつい先日大分県で国内初の屋外での有人飛行が実施されました。

こちらは中国のイーハンというメーカーの機体です。

上空30mまで上昇し、約3分間飛行しました。

長崎県としては、IRの誘致に合わせて長崎空港とハウステンボスを「空飛ぶクルマ」で結ぶ構想が打ち出されています。

自動車で移動すると約40キロですが、空を飛ぶ直線ルートだと22キロで、渋滞などに巻き込まれることもなくスムーズな移動が可能です。

そもそも「空飛ぶクルマ」に乗ること自体が海外の富裕層に向けた観光コンテンツになるとも考えられています。

さらに、現在放送中のNHK朝の連続テレ

ビ小説「舞いあがれ!」では、主人公が五島列島で電動小型飛行機を飛ばすという夢の実現を目指すストーリーで3月末の最終回に向けて非常に盛り上がりを見せています。

このように、「空飛ぶクルマ」に関しても長崎県は非常に大きな追い風を受けている状況ということで最後にお話させていただきました。

ドローンの利活用の現状について以上となります。

本日は貴重なお時間を頂戴し、誠にありがとうございました。

今後の例会予定

- 3月 8日 KCJ GROUP株式会社
パートナーアライアンス部
副部長 池上 哲朗 様
- 15日 新会員卓話 前田 真一 さん
(いちよし証券(株) 福岡支店長)
- 22日 調整中

西海学園高等学校インターアクトクラブ例会予定
未定

長崎国際大学ローターアクトクラブ例会予定
日時/3月6日(月) 18:00~
会場/いけ洲博多屋

*西海学園IAC、長崎国際大学RACにご出席されますと、
メイクアップにもなりますのでご活用ください。
*RACへご出席される方はお食事の要・不要の確認をいた
しますので、事務局までお知らせください。

(今週の担当: 吉田 英樹)

(カメラ担当: 大塚 隆夫)

クラブ会報・広報委員会

委員長: 吉田 英樹
副委員長: 中島 顕

委員: 船越 温・中村 真弥
大塚 隆夫・庭木 香充